

科目名		特別講義（Special Lecture）								
学 年	学 科(コース)	単 位 数		必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数			
第5学年	電気工学科	学習	1 単位	必修	講義	通年	45 時間			
担 当 教 員		外部講師								
学 習 到 達 目 標										
科目の到達目標レベル		講義でカバーできない、先端技術や他分野のトピックス、また進路指導に関する講演をする。 ①講演を聞いてまとめること ②各講演を聞き、知識を広めること ③企業活動を理解し、高専での学習と結びつきを知ることによって倫理観や未来志向性を身につけること								
到達目標（評価項目）		優れた到達レベルの目安		良好な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標①		講演の内容を明瞭に理解でき、要点を的確に見極められ、講演の全体像と要点をバランスよくまとめることができる。		講演の内容を理解でき、要点を見極められ、講演の全体像と要点をバランスよくまとめることができる。		講演を聞いた際、必要最小限度の一番大事な部分が理解でき、まとめることができる。		講演を聞いても、話の内容が理解できず、まとめることができない。		
到達目標②		講演を聞いた際、講演内容に関して幅広く知識を得ることができ、さらに必要に応じて講演に関する内容を自主的に調べることができる。		講演を聞いた際、講演内容に関して幅広く知識を得ることができる。		講演を聞いた際、自分に興味をもてること、あるいは、自分にとってたった今現在、必要なことに関してのみ、知識を得ることができる。		講演を聞いても、自分には関係ない話と思いこみ、知識を広げる意欲がきわめて乏しいか、全くない。		
到達目標③		講演を聞いた際、企業活動と高専での学修に関連があることに明瞭に気づき、企業での倫理観や未来について、はっきりとした自分の考えを築き始める。		講演を聞いた際、企業活動と高専での学修に関連があることに明瞭に気づき、企業での倫理観や未来について考え始めることができる。		講演を聞いた際、企業活動と高専での学修に関連があることに気づき、その関連についておぼろげながらも理解し始める。		講演を聞いても、企業活動と高専での学習の結びつきが理解できず、または、理解しようとししない。		
学習・教育到達目標		(D) ①		JABEE基準1(2)		(d)－(1)				
達 成 度 評 価（％）										
評価方法 指標と評価割合		中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合					100					100
知識の基本的な理解 【知識・記憶、理解レベル】					○					
思考・推論・創造への適用力 【適用、分析レベル】										
汎用的技能 【 】										
態度・志向性(人間力) 【主体性、自己管理能力】					○					
総合的な学習経験と創造的思考力 【 】										

関 連 科 目 , 教 科 書 お よ び 補 助 教 材	
関連科目	
教科書	担当教員が指示する
補助教材等	担当教員が指示する
学 習 上 の 留 意 点	
外部講師を招いた講演会を行います。卒業研究時間と調整して、まとめた時間で適宜実施します。実施する場合は、クラス掲示しますので、忘れずに出席してください。原則、欠席した講演の評価は0点となります。	
担 当 教 員 か ら の メ ッ セ ー ジ	
日頃接することのない先生方の貴重なお話です。真剣に聴講しましょう。	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1			
2	ナノテクノロジー、デジタル放送、パワーエレクトロニクスなど新しい研究、応用技術のトピックスや、企業の技術発展、知財や社会的責任などのかかわりなど、職業選択や進路指導に関わる講演を、大学、企業、卒業生に依頼して実施する [平成26年度の講義題目] ・ 求められる企業技術者像と今後の電機機器像 ・ 知的財産制度 ・ エンジニアとしての人生設計 ・ 電力システムに適用されるパワーエレクトロニクス技術 ・ 社会人になるにあたっての心構え ・ 求められる技術者像 ・ CSR corporate social responsibilityについて		各講演で指示された課題を行う。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
総 学 習 時 間 数			45 時間
講 義			30 時間
自学自習			15 時間